

令和5年度第2回特別支援学校における医療的ケア運営協議会協議（概要）

実施日 令和6年2月22日（木）

特別支援教育課

1 開会

2 あいさつ

3 協議

- (1) 「特別支援学校における学校体制による人工呼吸器を使用している児童生徒への対応に係るガイドライン」に則って対応したい児童生徒について

※個人情報のため非公開

- (2) 特別支援学校 学校体制による人工呼吸器を使用している児童生徒へのガイドラインの課題について

① 書類に関して

（事務局より）

- ・様式3「緊急時対応リスクマニュアル／指示書（案）」について、ガイドライン上の位置づけ、前回出された意見を説明した上で、
  - ア 現状のガイドラインの中で、様式3の扱いで省略できる部分はあるか。
  - イ「様式3－1、2、3」の3種類が必要か。
  - ウ 協力病院との連携をスムーズに進めるための方策の3点を協議の観点とすることを提案。

（協議）

ア 現状のガイドラインの中で、様式3の扱いで省略できる部分はあるか。

イ「様式3－1、2、3」の3種類が必要か。について

<委員の皆様からのご意見>

- ・（ガイドライン実施校の現状として）3－1の作成をはじめ、3－3の作成が完了するまで5～6か月かかっている。協力病院でも、主治医作成のものを送ってほしいと言われている。
- ・主治医と協力病院と保護者が賛同すればいいので、内容も同じであれば、様式としては3－3号だけを残しておけばいいのではないか。
- ・協力病院も主治医がつくったマニュアルに大きく変更になるところはないので、主治医がつくったものを協力病院にこれをお願いしますという形にすれば1回やり取りが

減り、時間も速く進むのではないか。

- ・変更等があった場合は、変更点のみ書き加えるような様式に改善できるとよい。

ウ 協力病院との連携をスムーズに進めるための方策 について

- ・（ガイドライン実施校の現状として）主治医の病院の連携担当部署に協力いただいて協力病院とのつながりを持てたが、協力病院では書類の違いなどで混乱していると聞いた。地域の病院へのガイドラインの周知が必要。
- ・協力病院に依頼するときのマニュアルというか、手引みたいなものを、主治医のいる病院の連携担当部署にも見ていただきながら整えていったらどうか。
- ・医ケアに関する書類が電子化され打ち込めばいいだけとかになると、病院間の連携もとりやすくてよい。
- ・書類についても、主治医の病院から協力病院に、病院から病院に送ったほうが、その流れがスムーズになる。
- ・圏域の医ケアコーディネーターも病院の連携担当部署と同じ役割で地域の病院とつながることができる。

## ② 検討の場に関して

（事務局より前回の意見を受けて提案）

- ・運営協議会の本員会、小委員会の開催時期を見直し、5回の検討の場を年間の中でバランスよく開催できるようにする。
- ・学校訪問による検討を行うとしたら、ガイドライン上の17、運営協議会②が可能ではないか。

## （協議）

<委員の皆様からのご意見>

- ・年3回というと、間が空いてしまうと思っていたのですがけれども、5回検討の場を持っていただけということであればありがたい。
- ・子どもによって進捗状況などは変わってくる。5回の中で選択できるようになっていると、負担にならないのではないか。
- ・学校を訪問するときには、リスクマニュアルをもとに実際にこれができるかどうかということの判断になる。主治医の先生が委員の代わりに行けるとよい。スケジュール的な問題もあるので、希望があれば、委員の方プラス主治医という形のほうがいい。
- ・学校としては、主治医の先生、委員の看護師さんに、改善点、足りない点等専門的な目で助言をいただきたい。
- ・小委員会のメンバーが全員行くのは難しい。委員の医師、看護師、教育委員会がのぞましい。